



ブラジリアの風



Vento de Brasília

～再び燃え立たせてください～

ここブラジリアは雨季から乾季に入り、朝晩は15度前後の過ごしやすい日々が続いています。日本の皆さまはお変わりないでしょうか。いつも温かいお祈りとご支援によってお支え下さり感謝申し上げます。私たちは主の恵みの内を歩ませていただいています。

先日5月12日（日）の「母の日」記念礼拝では説教する機会をいただき、「神と人に愛される」ことの幸いを語りました。主イエスご自身も、両親の保護と愛の中で育ち、父なる神の愛を受けて成長しました。公生涯に入るまでの30年間は、「神の子」として十字架の使命を全うするために必要不可欠な準備期間だったのでしょう。なかでも「すべてのことを心に留めて」祈る母マリアの存在は、イエスの人格形成に少なからず影響を与えたに違いありません。

私も幼い日より、家庭や教会で神と人の愛を実感しながら成長できたことは幸いでした。今日は、「神と人に愛されている」という実感の持てない人が増えているのかもしれませんが。便利さ・快適さを享受する反面、生身の人間からの愛情を感じにくい時代なのかもしれません。ある詩人が「いったい日本人は、本当に汗ばむほど神に抱きしめられたという実感をもっているか」と投げかけていますが、これはすべてのクリスチャンが向き合うべき問いかけではないでしょうか。

ブラジルでは3月に、ある学校で未成年者らによる銃乱射事件があり、8人の学生や職員が亡くなりました。その数日後、ニュージーランドでも50人以上が犠牲となる銃乱射事件が起き、しかも一部始終を犯人自身が撮影するカメラ

でライブ配信するという凄惨さに、現代の闇を見る思いがしました。神に愛され、人に愛されているという実感と自らの内側の罪と真摯に向き合う敬虔さがなければ、だれもが犯し得る罪ではないでしょうか。ますます時代の闇は深まっていると感じざるを得ません。

そのような暗いニュースが続くなかでも、主は嬉しい恵みを備えて下さっています。その一つに、インクラ地区に住む日系一世の方との久しぶりの再会がありました。その方は日本の教会で洗礼を受けた後、ブラジルに来られましたが、恐らく50年以上教会生活から離れていました。しかしその日、彼の部屋には安井牧師が手渡された聖書が置いてあり「今、毎朝読んでますよ」と話されました。そして別れ際、一言祈らせていただくと、何と、それに続いて彼の力強い祈りが始まったのです。一瞬、我が耳を疑うほどに、彼は「主よ！」と何度も神を呼びながら感謝の祈りを捧げられました。かつて日本の教会で熱心に祈っていたと思われるような神に近い祈りでした。「この人を再び燃え立たせてください」との祈りが自然に私にも湧き上がり、第二テモテ1章6節の言葉を思い起こしました。引き続きお祈りください。

2019.5.24

浜田献、陽子

献金報告と感謝

献金者一覧(2019年3-4月)

播磨刈苜教会、石神井福音教会、新津福音刈苜教会、匿名1名、鞭木由行、くずは聖書教会、浜田良夫、蛭池聖書教会、安城中央刈苜教会、総和刈苜教会、追浜聖書教会、矢作刈苜教会、新船橋刈苜教会、波崎刈苜教会、松戸福音教会、学園前聖書教会、生駒めぐみ教会（敬称略）

157,461 円 (3-4月合計)

累計 388,651円

【2019年目標:160万円】